

【小学校・自然に関わる体験活動】

ふるさとをみつめる自然体験・交流体験活動 奈良県香芝市立関屋小学校

1 学校の概要

(1) 学校規模

学級数：15学級

児童数：362人

教職員数：29人

(2) 体験活動の観点からみた学校環境

奈良県の北西部に位置する本校は、市街地から離れた静かな自然環境（金剛・生駒国定公園）に立地している。裏手にはなだらかな山があり、四季それぞれの風情を見せてくれる。また、近くには万葉集で知られた「二上山（にじょうざん）」がある。

大阪のベッドタウンとして開発された住宅地が広がるが、旧市街地の住民も多い。児童の家庭は、少子化傾向で核家族が多い。

自然環境に囲まれているにもかかわらず、児童は、自然に関わる体験が比較的少なくなっている。

2 活動のねらい

地域に気づき、地域を調べる学習を通して、ふるさとを大切にすることをはぐくむ。ふるさと「関屋」について調べたことをまとめ、そのよさを外部へ発信する。地域で子どもを育てていこうとする地域住民の意識の涵養を図る。

3 主な活動内容・方法

第1学年

- 公園めぐり（季節の生き物や草花遊び） ・幼稚園児との交流活動

第2学年

- 地域の探索（季節の生き物や草花遊び、地域の施設を知る）
- 農業に携わる様々な人々との交流活動（さつまいも掘り）

第3、4学年

- 季節変化における動植物の観察や栽培 ・地域の名人たちとの交流活動
- 地域への奉仕活動

第5学年

- 二上山遊学 ・野外活動
- 地域の交流活動（関屋病院訪問、縄づくり）

第6学年

- 二上山再発見 ・ぼく、わたしの12年史作成

4 教育課程上の位置付け

第1、2学年では生活科の学習を通して、第3学年以上は学校行事や総合的な学習の時間（ふれあいタイム）を通して、全学年がふるさと（地域）を学習の場とする。

年度末には、「お別れ会」（児童会活動）を開催して、お世話になった方々を招待し、感謝の気持ちを伝えるとともに次の学年での取組に対する意欲付けとする。

5 活動の概要（第5学年を中心として）

(1) 自然に関わる体験活動

二上山遊学

1年間、二上山の自然と触れ合うことを通して、子どもたちが課題意識をもち、調べたことをまとめたり発表したりする力を身に付けることをねらいとして、学習を展開した。

「われら二上山探検隊」

「見つける（5月 1日）」

二上山に登り、様々な視点から課題意識をもつことができる。

感性を生かして・・・ 体力だめし
 自然さがし スケッチ 音さがし 史跡さがし
 ↓
ブルーピング

- ・二上山の石
「雌岳にたくさん石があったよ。」「何種類くらいの石があるのかな。」
- ・大津皇子について
「雄岳山頂にあったお墓は誰のお墓かな。」「大津皇子ってどんな人だったのかな。」
- ・二上山の生き物
「山の中にかにがいたよ。」「どんな虫がいるか楽しみだね。」
- ・川の水
「ゴミが落ちているところがあったよ。」「飲めそうなところもあるね。」
- ・二上山の草花
「食べられる草が生えてたよ。」「学校にある植物との違いはあるのかな。」

「深める（10月 2日）」

二上山で見つけた課題について調べ、考えをまとめることができる。

秋の二上登山 資料集め 話し合い

- 「春の山とは違うね。」「この石すごいな。切れ味バツグン！」
- 「いろんな場所で水を入れて帰ろう。」「大津皇子のこと、電話で聞いたら分かるかな。」

「広める（11月 4時間）」

調べたことを、ポスターセッションで発表することができる。

ポスターセッション 押し花づくり

「振り返る（2月 1日）」

冬の二上山に登り、今までの学習を振り返るとともに、新しい気づきに出会うことができる。

野外活動（遠足・集団宿泊的行事）

5月の二上山登山に引き続いて、10月には野外活動を実施している。「自然・人」との関わり合いを多くもたせたいという観点から、本校区とは異なる自然をもつ曾爾高原にある「国立曾爾少年自然の家」で、自炊活動やキャンプファイヤー、星空教室、オリエンテーリングなどを実施した。子どもたちは、二上山を経験しているが、さらに曾爾の雄大さに感動した。また、その自然の中で、生き生き楽しく活動し、友だちとの信頼関係も深まった。

「キャンプだ ホイ！」（5月 2日）

野外炊飯

- 「見て見て！薪割りできたで。」「やったあ！火がついたよ！」
- 「家のカレーよりおいしいわ。」（焼きカレーやインド風もあったが・・・。）

キャンプファイヤー

- 「こんなに大きい火、近くで見るの初めてやわ。」
- 「曾爾って寒いなあ。」
- 「あーあ。火、消えてしまう。」

星空教室

- 「うわあ、関屋よりもいっぱい星がある！」
- 「あっ！人工衛星や！」「えっ、えっ、どこどこ？！」
- 「（近くの山ぎわからのぼる月を見つけて）えっ！あれって月？でっかいなあ！」

オリエンテーリング

- 「この黒い土は何？」「ここにすすき生えるんやって。」「また来たいなあ。」
- 「かぶと岳って、ほんまにかぶとみたいな形や！」「よろい岳もやで。」

(2) 交流に関わる体験活動

関屋病院訪問

本校では毎年、児童会活動で地域にある関屋病院との交流を続けている。今年はそのに加えて、5年生としても関屋病院を訪問し、高齢者と触れ合うことを通して、優しさや温かさ、思いやりの気持ちを学んでほしいと考えた。

「おじいさん おばあさんとのふれあいの会」(奉仕的行事 11月 2時間)

「事前指導」

- ・車いす体験
- ・お年寄りとコミュニケーションをしよう(ロールプレイ)

「車いすを押してもらうのって怖いなあ。」
 「去年も関屋病院に行ったけど、車いすにのっている人がほとんどだったな。」
 「お話しできなかつたらどうしよう。」
 「ちょっと恥ずかしいなあ。」
 「何をしたら、おじいさんおばあさんに喜んでもらえるかな。」
 「二上山の植物で作った押し花をプレゼントしよう。受け取ってくれるかな。」

「おじいさん おばあさんとのふれあいの会」

- ・歌とリコーダー
- ・手遊び歌
- ・みんなで肩たたき
- ・お話ししよう

おじいさんおばあさんとおは
 あさんにおはあさんとおはあさん
 なから喜んでくれました。いろんなおじ
 いさんや おばあさんと話をしてい
 るとおばあさんやおじいさんがい
 とま、よくくれたのでよかったです。あ
 ら「おじいさんおばあさん」と聞く
 「おじいさんおばあさんやう」とよく
 たりおじいさんおばあさんやうと
 めがうなりました。おじいさんおば
 屋病院に行くときはおじいさんおば
 さんおじいさんおばあさんに
 さんおじいさんおばあさんに



運車を運べるように
したいです。

きのうはくはあさんといっしょに 関屋病院
 に行きました。おじいさんやおばあさ
 んといっしょに手遊びや肩たたきをしま
 した。ほくが肩たたきをしてあげると
 とても気持ちよかったです。そのとき
 歌たりおじいさんやおばあさんが
 一緒に歌ってくれました。その時
 みんな元気だと思いました。話して
 いると涙を流している人がいて
 来て良かったと思いました。



教えて！おじいちゃん・おばあちゃん
地域とのふれあいをねらいとして、福祉推進協議会の方々に協力を依頼し、縄作り体験を計画した。

「えがお ふれあい 縄作り」(12月 4時間)

福祉推進協議会からのサポーターに加え、大阪府太子町からも有志で数名が参加して下さった。地域の人々と学校とのつながりもより深めることができた。

子ども声

「おじいちゃん、すごいな。」「自分の部屋に飾んねん！」
 「家、帰ってみかんつけたる！」「お母さんにも教えてる。」

地域の高齢者の方々

「来年もまた来てね。」

職員の声

「多くの地域の方々とは巡り会えた。」「サポーターの方々の笑顔にふれた。」

「正月遊びを楽しもう」(児童会活動 1月 2時間)

関屋福祉推進協議会の方や保護者も交え、竹馬、百人一首、こま回し、お手玉、ふくわらい等の遊びを通して、交流を深める行事である。毎年行っているが、今年は例年にも増して参加者が多かった。



二上山探検隊

えがお ふれあい 縄づくり



6 学校支援委員会の組織・運営

関屋福祉推進協議会、関屋病院、関屋幼小PTA、地域の専門家で組織し、学校と綿密な連携のもとに行事を推進している。

「香芝市豊かな体験活動推進地域協議会」とも十分な連携を図り、内容面、経費面においても指導、援助を得ている。

7 活動の成果

二上山や野外活動の自然体験の中で、喜びや感動の姿が数多く見られた。さらに、「もっと二上山を調べてみたいな」など自然事象についての関心が高まり、家庭でも草花を育てる子どもが増えてきた。また、「地域の人とまた何かやりたいな。」と、ふるさとに目を向ける子どもの意識が向上した。

地域や保護者方々からは賞賛や喜びの声をいただいた。また、本校職員も多くの方々の笑顔に出会うことできた。学校と家庭・地域社会との連携が深まり、地域で子どもを育てていこうとする雰囲気広がりがつつある。

8 今後の課題

学校と地域社会との連携を学校教育の重点課題の一つとし、各学年の体験活動を総合的、横断的に検討し、学校の全体計画をさらに吟味していかなければならない。

ふるさとのよさを伝えるために、他の地域との年間を通した交流計画もさらに改善していく必要がある。

地域で子どもを育てていこうとする意識を高めるため、今後も、学校支援委員会を中心とした働きかけを重視する必要がある。